

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p><b>1 地方創生・旧来型志向の抜本的転換を(45分)</b></p> <p>我が国、日本を衰退国家たらしめないためには、経済活性化は不可欠な課題である。アベノミクスはまさにそのためのものであるが、出発当初の目覚ましい勢いと比べれば、このところの少々の停滞感は否めない。とはいえ、何事もただ一直線に進むものではないと考えれば、むしろこれをアベノミクスの第一段階から第二段階への不可避的な「ギアチェンジ」の機会と捉えなおし、ここでこれまでの歩みを見直し、第二段階の新たな課題を設定し直していくことは、内外の状況から見てもタイムリーな作業ではないかと考える。</p> <p>そこで、この第二段階の課題である。私はやはり「地方」こそがそのポイントになると考える。アベノミクスの「新」3本の矢の内、特に第2の矢「夢紡ぐ子育て支援」では、出生率1.8、幼児教育の無償化、結婚支援や不妊治療支援に取り組むとなっています。</p> <p>今後、市でもこれらに対して様々な施策を展開してゆくと思われまます。このことを進めていくためには、今迄的な発想の延長線上では目標の達成は困難を極めると思われまます。発想を抜本的に転換し、全庁、全市的に取り組む必要があると思ひ、以下、質問を致します。</p> <p>(1) 過去5年間の、それぞれの出生数は。</p> <p>(2) こども医療費について(直近のデータで)  ア 小学生まで対象だった時の医療費総額は。  イ 中学生まで対象を拡げたのちの医療費総額は。</p> <p>(3) 国民健康保険における出産育児一時金(祝い金)の第一子、第二子、第三子、それぞれの支給金額は。</p> <p>(4) 市内における三世帯同居の世帯数は。</p> <p>(5) 公民館から市民センターになったの業務的变化は。</p> <p>(6) 新たな枠での「特別出産育児祝い金」の新設を。</p>	市 長